第 2018-36 号

恵みと真理のニュース

2018 年 9 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

御言葉を通して正しく堅固な信仰を与えてくださり、御言葉で一日を向かえ黙想して適用する福なる人生を生きるようにしてくださった神様の恵みに感謝捧げます。

私は４歳の頃、母を亡くして祖母のもとで育ちました。父と私は健康ではなかったです。特に私は家の大人から“これから一人前の役割を果たせるか。心配の声を良く聞きました。小学校５年生の時に、父が再婚をして新しい母が田舎の生活するのを嫌がってソウルに引っ越しました。
以後、私は新しい母の関係において多く葛藤しました。そうしながら彷徨して反抗する青少年期を過ごしました。それによって性格が荒れて否定的な性向をみせるようになりました。早く大人になり独立して専門職で働いて早く結婚もして経済的にも余裕ある生活をしたかったです。
２０代半ばで結婚をしました。ところが、旦那も成長過程が良くなかったので４歳の頃、父を亡くして私と同じように傷が多い人でした。私達は互いに愛を求めながら愛を与えることができなくてもらいたがっていました。理解と配慮が足りなくて葛藤が多くなり小さい事でも互いに言い争いがちでした。そうしながら、私はうつ病と対人忌避症に悩まされました。そうしながら精神的で痛んで彷徨っているとき、知り合いの方が教会に通いなさいと私を伝道しました。福音を聞いて、教会に通い神様を信じる信仰生活をすると決心しました。当時、ソウルのザンシルの家の近くにある教会に行ってはじめて礼拝に参席しました。その時のわたしの歳が３０歳でした。司会者の礼拝の開始を知らせる鐘が鳴るどたん、 なんとなく涙が出ました。牧師がどんな内容で説教したのかわからないほど礼拝の一時間ずっと大泣きしました。礼拝が終わると涙が出ませんでした。驚くな事でした。恥ずかしかったのでひそかに帰ろうとしましたが、伝道師が近づいてきてわたしの肩をたたきながら呼びました。そして、聖霊様が悔い改めさせたのだと祝ってくださいました。
聖霊様がどんな方なのか、悔い改めが何なのか知らなかった私はただ恥ずかしくてその場を逃げようとして出て来ました。どころが、数歩歩いた瞬間にわたしの心に驚くな変化が起こりました。そんなに苦しくて鬱だった心が表現できない平安と喜びが波のように来たのです。私はただ、“感謝します。感謝します。”と繰り返して言いながら家に帰って来ました。その次の週から朝早く起きて家族の食事の用意をしておいて教会に走って行きました。教会に行くことで日々の生活が楽しかったです。私は単純に礼拝を終えてから家に帰ってくるとその日に聞いた説教の御言葉がなかなか覚えなかったです。私は単純にわたしの頭が悪いから記憶できないのだと頭がわるいせいだとして、家で聖書を開いて読みました。しかし、ただ白い紙で黒い字だけでした。礼拝を捧げる時間が幸せでしたが説教を聴いて悟り恵みを受ける喜びを感じられなかったです。そうするなかで、アンヤン市に引越ししてから、恵と真理教会に通い始めました。礼拝に参席して当会長牧師の説教を聴くうちに、初めの日から前と違って一節一節から深い感動を受けました。その次の日から御言葉を受けたとおり恵みになりました。ある日は、説教を聴いて恵みを受けて家に帰って来て聖書を開いてガラテヤの信徒への手紙４章７節の “ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。”御言葉を黙想する中で表現できないほどの感動を受けて聖霊充満を受けました。心が恍惚でうれしく神様に賛美してまた、賛美しました。
“実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。”（ローマ書１０：１７）
その次から福音を伝えなくてはたまらないほどになりました。生きておられる神様、私達に話す神様、わたしの罪を赦すため十字架に釘打たれて死なれて復活した主を　救いの福音をイエスを信じない人々に伝えたくてたまらなかったです。その時からいつも聖書を読みました。恋する時もこのように愛する人を会いたがらなかったですが、神様の驚くな愛とイエス様の贖いの恵と助ける聖霊様の導きお働きがどれほどうれしくて感謝なのか眠れないほど主を愛するようになりました。
“現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないとわたしは思います。”（ローマ書８：１８）
“わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。 わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。）（マタイの福音書１１：２９，３０）
“イエス様がペテロに質問したように、牧師の説教を聴くうちにイエス様が私にも“私を愛しているか？”と聞きました。私はそんな質問をなさるだけでも限りなく嬉しくて感謝でした。“はい。私が主を愛するのを主が知っておられます 。”と告白しました。そんな後、もっと人々を主に導く事に一生懸命しました。聖霊様がわたしの自分の考えが強くて理解が足りなかった性格と性品も多く変化させてくださいました。
私は今、信仰生活の初めに願っていた勧師の職分を受けて教会と生徒を仕えています。私を救ってくださりわたしの人生の中でいつも共にしてくださったエベンエセルの神様、御言葉と聖霊で教えてくださり、行く道を導いてくださる神様の恵みと愛に感謝と賛美を捧げます。
私が始めて恵と真理教会の礼拝に参席したその日から今日ま出、いつもひたすら権能の説教御言葉で恵を与えてくださり、この世がどうであれ正しい信仰を持って聖霊充満な信仰生活をするように導いてくださった当会長の牧師に感謝します。
私が好きな祈祷文でわたしの証を終わりたいと思います。
“主よ。たまに病気にかかることも感謝します。人間の弱さを悟るからです。たまに、孤独の沼から取り出してくださり感謝します。それも主に近づく機会になります。仕事が自分の計画通りにならなかった事も感謝します。それで、わたしの高慢も反省することができます。子供が心配なり、親と友が重荷になる時もあるようにしてくださって感謝します。それで人間のやりがいを悟るからです。たまには働く苦労を与えてくださったことも感謝します。涙を流したパンを食べる心を理解できるからです。不義と偽りが多いこの時代に生きることも感謝します。神様の義が表れるからです。汗と苦労の苦みの味を見るようにしてくださって感謝します。それで、主の愛を悟るからです。主よ。このように感謝する心を与えてくださり感謝します。アーメン

［信仰コラム］　誰でも私についてきたいと思うなら

”...だれでもわたしについてきたいと思うなら，自分を 捨て、自分の十字架を負うて，わたしに 従ってきなさい”（マタイによる福音書 16:21～24）

聖書を読みながらキリストを信じると言う人なのに異端とエセ信者になる根本的な理由は聖書を自分が正しいと扱って好む通りに解釈して、キリストについて自分の判断通りに信じるからです。このような部類の人々を聖書で調べてみましょう。
第一に、イエス様が弟子達と共にエルサレムに向いて行かれていた途中にあった事件です。
ある人がイエス様に来て”あなたがおいでになる 所ならどこへでも 従ってまいります”と言いました。この人はイエス様を政治的なメジヤだと考えて万が一、イエス様の活躍でユダヤ国がローマの圧制を抜いてダビデ時代の光栄と繁栄を回復するようになるとイエス様を側近で従う人々は大いに出世すると判断したのです。イエス様が彼に向いて”きつねには穴があり，空の 鳥には 巣がある。しかし，人の子にはまくらする所がない ”と答えられました。その御言葉が彼にとても衝撃的に聞こえたでしょう。イエス様を信じて従うためにはいかなる苦難と逼迫があっても驚かず、揺らないという決断があるべきです。
第二、イエス様がパリサイ人達との論争と子供達を祝福なさることでしばらくの間中断された旅道を再び進行なさろうとなさった時にあった事件です。
ある人がイエス様に走ってきて膝まずき”よき師よ，何をしたら永遠の生命が受けられましょうか”と質問しました。イエス様は彼の真剣さと熱情を尊く扱いましたが、彼を空しい知識から離れるようになさるためこのように言われました。”あなたのする事がまだ一つ殘っている。持っているものをみな賣り拂って，貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば，天に寶を持つようになろう。そして，わたしに従ってきなさい。”すると彼は’顔を曇らせ、悲しみながら’イエス様を立ち去りました。救いととこしえの命に対して自分が願う答えを既に定めて質問をする人は結局顔を曇らせ悲しみながら立ち去ってしまいます。
第三、イエス様の弟子だと考えて従っていた多くの人々が失望して離れる時にあった事件です。
イエス様がカペナウム会堂で教えられる時”わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は，いつまでも 生きるであろう。わたしが 與えるパンは，世の命のために與えるわたしの肉である、わたしの肉を食べ，わたしの血を飲む者には，永遠の命があり，わたしはその 人を 終りの日によみがえらせるであろう。わたしの肉はまことの食物，わたしの血はまことの飲み物である。” と言われました。イエス様の肉を食べて血を飲むという言葉はイエスキリストを信じてイエスキリストと連合されるのを意味するが、これを理解することができなかった人々はイエス様を離れました。イスカリオテのユダは聖書に予言されて、イエス様が直接言われた通りにメジヤに対する観念を持たず、自分が願う通りのメジヤに対する観念を持ったので恐ろしい罪を犯してしまいました。大祭司長達が送った群れにイエス様が逮捕されると弟子達は全て逃げました。ペトロはイエス様が尋問される現場で自分はイエス様を知らないと 3 回も否認しました。彼らがこのように行ったのは彼らが考えたメジヤに対する期待が崩れたからです。
イエス様がエルサレムに向いて行かれながら弟子達に御自分がたくさんの苦難を受けて殺されることとまた、３日目に蘇られることを明らかになさるとペトロがイエス様に”主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません。”としました。イエス様が振返られてペトロに言われました。”サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。”そして弟子達に”だれでもわたしについてきたいと思うなら，自分を捨て，自分の十字架を負うて，わたしに従ってきなさい。”と言われました。イエス様がペトロを責められた理由はイエス様の受難予告に対してペトロが自分中心的に判断して話したからです。
イエスキリストの贖いの苦難と死を否定する理論と主張は全てサタンから始まったのです。十字架につけられて血を流れ死なれた後、復活なさったイエスキリストだけが救い主という事実を否定する哲学と神学と教理は全てサタンから始まったのです。聖書に啓示されたメジヤに対する御言葉と異なって考え、教えることは全て異端に属したのです。そして聖書と異なって信じる人は全てエセ信者であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

主の意志は、状況を変化させる

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

神を信頼するというのは、神の言葉を固く信じるという意志を持ちます。神を信頼する自任する人が聖書に記録された神の言葉を批判して一部分だけを信じるならば、真のクリスチャンではありません。人は、神の言葉を批判する位置にいないのでそんな権限がありません。確かに神を信頼する人は、聖書に記録された言葉は、全能であり忠実な神の意志の表現であることを信じています。神の考えと意志は、誰も何も無駄することができません
だいたい私たちは当面の現実の状況に心を集中します。状況が悪ければ憂いや不安に包まれています。落胆して挫折します。ところが、神を信頼すると現実の状況に心がひどく振り回されません。神の言葉に内在された神の考えと意志は、私たちが直面した現実の状況を克服するように変化させます。ですから、私たちが問題と状況に集中するよりも、その問題と状況に該当する神の言葉に集中する必要があります。今日は　ペテロがこれらの真理を学びされた事件について見てみましょう。

第一は、漁に失敗した状況にいるペテロがイエスの言葉に従うことによって、成功した状況で変わった事件を見てみましょう。

ある日の朝でした。ガリラヤ湖のきらびやかな日差しがあふれ下り、揺れる波に太陽の光が反射して目を眩ました。湖の周りを取り囲んでいる山の平原が一似合っその風景が一幅の絵のようでした。その時漁船の二隻が湖畔に着けました。日光に焼かれ、顔が銅光のような漁師シモン・ペテロが丸まった網を抱いて空の船で歩いて出ました。ペテロの表情は暗く落ち込んました。ペテロは、彼の同業者であるヤコブとヨハネと一緒に夜通し網を投げたが、一匹の魚も取りませんでした。ペテロは疲れ失望に満ちた姿で網を洗っていました
ちょうどその時、人々は湖畔に集まってきました。イエスの言葉を聞くために集まった人たちでした。イエスは群衆に効果的に言葉を伝えるための適切な場所を見つけて探るが空いた船二隻があるのを見ました。イエスがペテロの空船に上りペテロに船を陸から少し離すようにしました。ペテロは船を陸から少し離した後、イエスの横で言葉を聞きました。イエスの言葉がペテロの心の中に深く掘り下げてきました。ペテロの顔が赤くなって表情が明るくなりました。言葉を聞いて悟りを得ました。信仰を持つようになりました。何か良いことがあるような奇異な期待感が彼の胸を満たしました
言葉を終えたイエスがペテロに予想外の指示をしました。**「沖へこぎ 出し， 網をおろして漁をしてみなさい」**イエスはペテロに下した指示は、漁師たちの経験と常識に完全に配置されることです。この湖で網で漁を取る最も適切な時間は、夜なのに、今は太陽がまぶしく照らす朝です。この時間網を降り漁を取る深いところではないです。

ところが、驚くべきなことに、ペテロはまっすぐ立って答えを「先生、私たちが夜通すように手間をしたが、何も取らなかったが言葉に頼って、私の網を下ろすしましょう」しました。群衆はペテロの行動を不思議に思って眺めてみました。ペテロはまっすぐ船をいよいよ深いところに進んでペテロは網を下ろしました
その瞬間、驚くべきなことが起こりました。網を上げると漁がたくさん取れたか網が破れる状況でした。ペテロは他の船の仲間たちに手招きして来て、助けてくれました。彼らが来て、漁を二船に一杯に船が沈む程度になりました。すべての人がとれた漁を見て驚きのを隠せませんでした。この朝にペテロは、「イエスの意志は、状況を変化させる」「状況よりもイエスの思いと意志である」ということを学びました

第二は、イエスが大麦のパン五つと魚二匹で五千人を満腹食べさせた事件を見てみましょう。

ある日、巡回伝道を終えて帰ってきた弟子たちがイエスに、自分たちが行ったのと教えたことを一つ一つ見てから報告しました。また、バプテスマのヨハネが処刑された事件も伝えました。イエスの弟子たちが静かな場所で休みを得るようとカペナウムを離れ去って船に乗ってガリラヤ海の北東にあるベツサイダ野原に渡っていきました。ところが到着してみると群れがその場所で、イエスを待っていました。イエスは彼らを見て、羊飼いのいない羊のように思って彼らの中に病人を癒しました。イエス高い台に上ってすわり、集まった群衆を教えました
いつの間にか夕方になりました。イエスがピリポに「私たちはどこでパンを買って、この人を食べだろうか」と質問しました。ピリポは答えを「一人一人に少しずつ下さるとしても、二百デナリ分のパンが足りません。」イエス言われた　〝あなたが食べるものを与えて下さい。」しばらくしてアンドレがイエスに言った。「ここに子供が大麦のパン五つと魚二匹があります。しかし、それは多くの人々に何の役に立つでしょうか」イエスは「それを私に持って来なさい」しました　以後、弟子たちに人々を五十人ずつ集まって座るように指示しました。人々が芝生の上に集まって座りました。女性と子供のほか、成人男性だけでも五千人もいました
イエスは大麦のパン五つと魚二匹を持って感謝の祈りをささげてから、パンを外し、弟子たちに与えて群れに分けて与えました。魚もそのようにしました。驚くべきことに、このような伝達が継続され、最終的にすべてが腹いっぱい食べました。イエスが残りの分を収めて捨てることがないように指示しました。残りの部分を収めるとなんて十二バスケットにいっぱいです。この不思議で驚くべきことを経験した弟子たちの中ペテロはこの事件で再び重要なメッセージを捕捉しました。状況はともかく、「あなたがたが食べるものを与えなさい」というのが主の考えであり、意志です。イエスの意志があれば解決道が開かれます。この奇跡の事件で「状況より、主の御心がもより重要である」「主の意志は、状況を変化させる」という霊的な原理をペテロは心に深く受け入れました。これを立証する事件があります。

イエスは群れがパンと魚を腹一杯食べた後、弟子たちに船に乗って向こう側に行くように促しました。そして群れを村に戻るように散らばって送られました。イエスは祈るために別々に山に登って行き、日が暗い時までそこでいました。弟子たちが乗った船は陸から十里のところまで行った時に急激な気象の変化に波が激しく起こるので、弟子たちは死闘をしました。その弟子たちは、人の形が海の上に彼らに向かって歩いて来るのを見ました。弟子たちは、「幽霊だ」と恐怖で叫んしました。「安心しなさい。私で恐れてはならない」イエスの声が聞こえました。その時ペテロがイエスに向かって要求しました。「主よ、もし主であれば、私に命じて水の上に来るようにしてください。」しました
イエス　〝来いよ〟 しました。ペテロは、イエスの意志が込められた「来い」という言葉を信じて船から降りて水の上に歩いてイエスに向かって進みました。ところが、ペテロが強い風によって起こる大きな波を見て恐れ駆らた。その瞬間、水の中に陥って入りました。ペテロは急い叫びました。「主よ、私を救ってください。」イエスはすぐに手を伸ばして、ペテロをつかまえて「信仰が小さい者よ、なぜ疑ったのですか」しました。そして船に一緒に上がると風が止まりしました。その光景を見て、その他の弟子たちがイエスにおじきして　本当に神の子です」としました
ペテロは 大麦のパン五つと魚二匹の奇跡事件を通して学んだことを適用しました。「状況より主の御心に、主の意志がなによりも重要である」「主の意志は、状況を変化させる」という霊的な原理を自分に適用したのです。ペテロの失敗は恥じがありません。有益な経験です。海の中に陥って入らないように、主がすぐペテロの手を握ってくれました

私たちは、当面の現実の状況に心を集中する癖があります。状況が悪ければ憂いで落胆して挫折します。ところが、神の言葉に集中すれば、現実の状況に心がひどく揺れません。神の言葉に内在された神の考えと意志は当面、現実の状況を克服することで変化させます。したがって、問題と状況に集中するよりも、それに該当する神の言葉を見つけなさい。その言葉を黙想し、その言葉に集中してください。そして、全能の神の意志があなたの人生を主張するので、主がくださるの奇跡としるしを多く体験しながら生きるのを願っております。